

私達の目的

ネパールのバグマティ県ダディン郡在住の住民に対して、奨学資金などの援助を行うことにより、彼らの教育レベルの向上の推進に寄与することです。

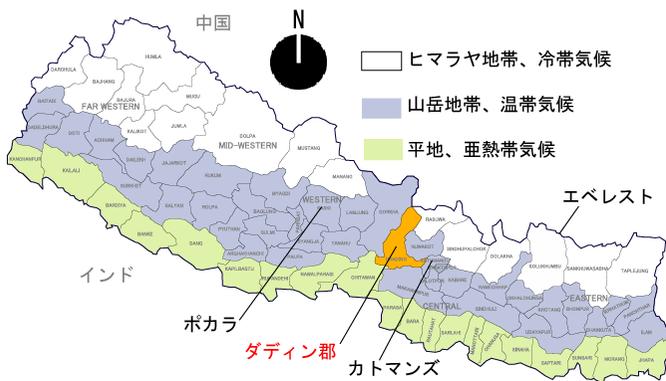
設立趣旨・対象地域の概要

私達が援助を行う対象地域、バグマティ県ダディン郡を知ったのは、友人であるネパール人私費留学生リジャル氏を通してでした。彼は、この地方出身であり、山村の発展と教育レベルの向上を切望しています。

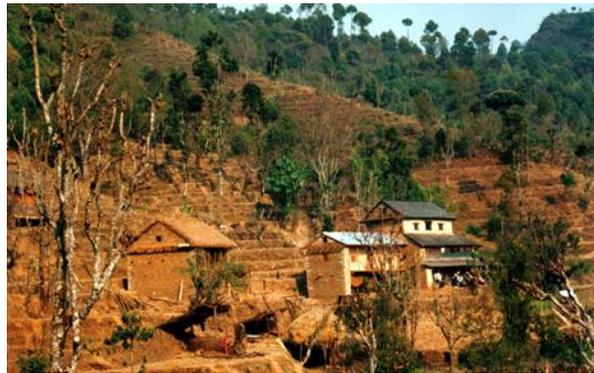
彼の出身地サッレ村は、首都カトマンズと同じ県内にあり、直線距離で北西約 50 キロメートルしか離れていないにも関わらず、バスで約 4 時間、さらにバスを降りてから山道を 4 時間歩かなければなりません。ネパールの多くの山村同様、この村でも教育に関する子供達の問題は深刻です。

家庭の経済的な理由や、家業の農業を手伝う重要な働き手という理由で、初めから就学を断念したり、就学途中で辞めてしまう子供達は多いのです。特に女兒の場合、親が女性に学業は不要とみなして教育の機会を与えず、読み書きすらできないことも少なくありません。

また、村の多くの世帯では自給自足の生活で現金収入がほとんどありません。土地がやせている、一世帯あたりの子供の数が多い、などの理由から、1 年の収穫物は 9 ヶ月分の食料にしかありません。その結果、



対象地域の位置(ネパールには 75 郡 14 県あります)



サッレ村の様子

現金を得るためにインドや中東に出稼ぎに行く者もいます。子供を都会に出稼ぎに出さざるを得ない場合もあります。7 才位になれば、レストランで皿洗い、一般家庭で子守りや家事労働を行います。それでも家計が苦しく、銀行や高利貸しに借金をする家庭もあります。

このような村に生まれ育ったリジャル氏は、縁あって知り合った日本人の援助によって、日本への留学の機会にも恵まれ、日本の奨学財団の経済的・精神的支援のおかげで、大学から大学院まで通算 10 年間就学することができました。彼自身の受けた支援を通じ、社会奉仕の精神も学びました。日を追うごとに彼は、母国ネパールの発展には教育が一番大事だと実感しているそうです。

私達は彼の目標に賛同し、友人達に呼びかけて、バル・ピパル奨学基金の設立を決意しました。村の発展と生活環境の改善には長い時間と多くの資金が必要ですが、まず最初に行うべきことは教育であり、住民の識字率と就学率の向上です。奨学金制度を設けて生徒を援助すれば、親の負担が軽くなるばかりか、子供達もリジャル氏のように奨学金を受けようと一生懸命勉学に励むことでしょう。結果、子供の就学率が向上し、将来村の環境改善の中核として活躍してくれると思うのです。私達の活動趣旨を数多くの人々に伝え、協力及び支援を受けるには、活動母体が明確である必要があります。また活動内容が長い時間のかかる教育問題であるため、継続性が重要であることを考え、法人を設立しました。

ネパールの教育制度

ネパールでは、大きく分けて 1~5 年が小学校、6~7 年は中学校、8~10 年は高校の 10 学年制です。6 才から就学可能ですが、義務教育制ではないため、家庭の事情によって就学開始年齢は異なります。各学年で学年末試験があり、落第すると留年となります。

10 年生を終了後、SLC(School Leaving Certificate、学校卒業証書)と呼ばれる全国統一試験を受験します。合格者は得点によって、1st(60%以上)、2nd(45%以上)、3rd(32%以上)の 3 つにレベル分けされ、進路が決まります。理工学系に進学できるのは、1st レベルに達した者だけです。SLC は、進学や就職に必要な最低限の学歴であるため、学生にとって非常に重要な通過点です。

SLC 取得後、さらに進学する者は、大学(University) 付属の 2~3 年制キャンパス、または一部の高校に導入されている制度(10 plus 2)の 2 年制学校で学びます。このいずれかを卒業した者が、日本でいう「大学(University)」に進学する資格を取得したことになります。

公立校の場合、授業料は 10 年生までは無料ですが、一部の学校では、6~10 年生に限り有料の場合もあります。教科書代については、5 年生までは無料配布されますが、6 年生からは各生徒で購入します。また、入学金、文房具費、定期試験費用は、各学年とも生徒が負担します。キャンパスや大学では、全て自己負担となります。

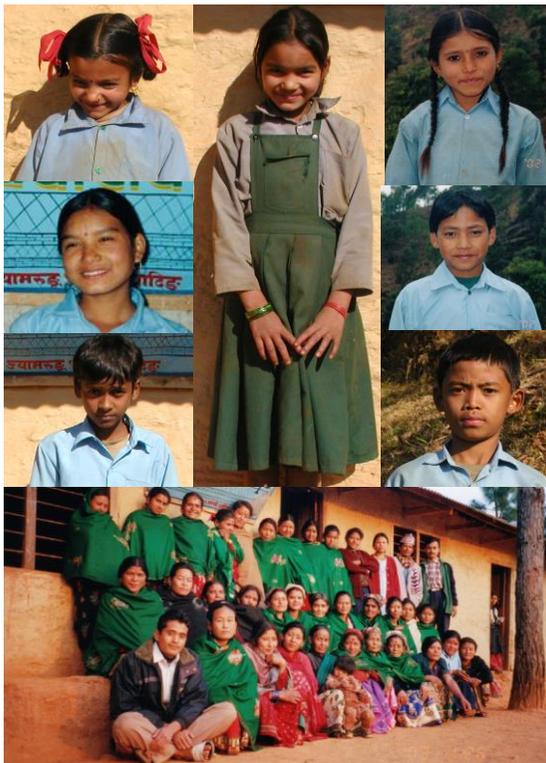
尚、6 歳以上の国民全体の識字率は 53.7% (男性 65.1%、女性 42.5%) です (Statistical Pocket Book Nepal, CBS, 2002) が、山村に限定するとさらに低い数字になります。



サッレ村の 1 学年生達

活動内容

1. 学用品支援・・・教育環境を充実させるために、学校に教材や遊具を寄与します。
2. 奨学資金支援・・・優秀な学生を育てるために、学年で成績が優秀な児童に文房具や学用品を寄与します。
3. 識字率向上支援・・・住民全体の教育レベル向上のために、夜間学校で読み書きを学ぶ成人(多くが女性)を奨学支援の対象とします。
4. 書籍購入支援・・・住民に国内外の情報や専門知識を提供するために、新聞、雑誌、絵本、技術書などを寄与します。
5. 図書館設立支援・・・住民が自由に教育に触れる機会を得られるように、図書館を設立します。
5. 学校運営支援・・・教育レベル向上のために、学校教師の雇用資金を援助します。



(上) 小中高校の奨学生達 (下) 夜間学校の成人達

この法人名の由来

ネパールでは、山間部の人々の交通手段は現在でも徒歩に頼るしかなく、山道には旅人のための休憩所があります。その目印として、「バル」と「ピパル」と呼ばれる2本の菩提樹が並んで植えられています。「バル」は男の木、「ピパル」は女の木を意味し、中には樹齢400年の大木もあります。長い歴史の間、風雨や強い日差しから多くの旅人を守り、安らぎを与えてきたこのバルとピパルのように、ネパールの子供達も立派に成長し、人の助けとなる人間になって欲しいと願い、「バル・ピパル奨学基金」と名付けました。

ご協力のお願い

この法人の活動資金は正会員費と寄付金から成り立っています。私達の設立趣旨と活動内容にご賛同して頂ける方に、ご支援・ご寄付をお願い申し上げます。下記の振込先に会費または寄付金をお振込下さい。年度の事業報告書にて活動状況をお知らせ致します。

振込先

郵便振替口座 00930-4-265848
口座名称 特定非営利活動法人 バル・ピパル奨学基金
<正会員> 入会金 5,000円 年会費 10,000円
<ご寄付> 3,650円～ (1日10円×365日)

連絡先

特定非営利活動法人バル・ピパル奨学基金
ホームページ・アドレス : <http://barpeepal.com>
メールアドレス : info@barpeepal.com

現地連絡先

NAR BAHADUR RIJAL
C/O BAR PEEPAL SCHOLARSHIP
SALLE GAUN, JYAMRUNG VDC-1,
DHADING DISTRICT, NEPAL



特定非営利活動法人
バル・ピパル奨学基金



イラスト：井林昌子

芽を育てるために協力する人々。「種をまく人」、「日光をあてる人」、「水をあげる人」。立派に育った芽と小さな芽。鳥が木の実を食べ、遠くに種を運んでいる様子。ネパールの子供達もこの芽のように、皆で協力して育てましょう。